

京都市立学校・幼稚園の保護者の皆様、児童生徒の皆さんへ ～大切な人を守るために、注意いただきたいこと～

1 基本的な感染対策（家庭内にウイルスを持ち込まない）



2 日常生活上の留意点（家庭内感染の防止）



こんな時、どうしよう？

- 発熱等、体調の悪い時
 - ①児童生徒本人や御家族に、発熱や倦怠感、のどが痛い等の風邪の症状がみられる場合は、必ず学校・幼稚園に連絡し、登校園を控えてください。
 - ②そのうえで、まずは身近な医療機関に、まず電話で相談してください。
休日・夜間など受診できる医療機関がない場合は、「きょうと新型コロナ医療相談センター」に相談してください。
電話番号：075-414-5487
受付時間：土・日・祝日を含む24時間
 - ③医療機関を受診した結果についても、学校・幼稚園に連絡をお願いします。
- 同居家族等がPCR検査を受ける場合
保護者の方も早めに出勤等を控えていただくことにより、後に、同居家族等及び御本人の感染が判明した場合に、濃厚接触者となる方を減らすことができます。
同居家族の方が検査対象となった時点で、児童生徒も登校園を控えていただくことで、子どもの感染が判明した場合の他の児童生徒等への影響を、最小限に抑えましょう。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狹い空間での共同生活

- 狹い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寝室の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

